

留学の目的・きっかけ

将来英語教員を志す私は、英語はそもそもコミュニケーションツールの一つに過ぎないと考えており、英語を学ぶことの楽しさを広められるようになりたいと考えている。今回の英国への留学の目的は第一に教員として最も必要な語学力の底上げを行うこと、そして英国の日本語クラブにおいてボランティアとして日本語教育のサポートをすることで子供たちの他言語に関する興味関心を現場での活動でどのように引き出しているのかをこの目で見て将来へのヒントにしたいというものであった。

きっかけ自体は多様な理由がある。単に海外であれば訪れたことがある一方で英語専修であるのにもかかわらず英語圏へ足を運んだことが無く、教員の経験として必須なものであると思ったこと。また一年生の夏休みに行こうと決めた理由は、学年が進むにつれて実習の影響でまとまって大きな時間をとることが困難になることが容易に想像できたことなどから今回の渡英を決断した。

留学先での活動と生活環境

今回の留学では英国南部のブライトンという都市にある語学学校において General English コースを受講した。クラスには韓国やサウジアラビア、イタリア、スペインなど様々な国から来た生徒がいた。日本人も数人はいたものの授業間の休みや、放課後などは英語でコミュニケーションをした。彼らとはすぐに仲良くなることができたので、語学学校で英語の授業を受けたあと街のショッピングモールに出かけたり交流できた。

週末では、ブライトンにある日本語クラブで、15歳くらいの子供たちを対象に日本語を教えるサポートを行ってきた。具体的には、GCSE と呼ばれるイギリスでのカレッジ進学に必要な試験で日本語を選択した13歳前後の生徒10人程度が試験対策に取り組んでいる作文の添削や漢字テストの採点などを行い、その経験及びボランティアで講師をしている方のお話を聞くことで、いかに第一言語以外の言語を学ぶときの興味を引き出しているのかを学んだ。例えば、その生徒の趣味に結びつけた誘導であったり、その言語の魅力、また目に言える形での成果を示すことで、学習意欲を引き出すことなどが見られた。

生活環境に関しては私の再従姉妹（はとこ）が英国に住んでいるため、留学期間中はその一家に基本的にお世話になった。学校外の生活では時々ロンドンをはじめとする各地に足を運んで、有名な観光地も廻った。

トビタテで留学してよかったこと

奨学金のよかったことはあまりにも多いが、まずはこの奨学金の応募条件についてだ。自身の留学計画を完遂できる程度の語学能力こそ必要とされているものの、私自身は現地での生活、ボランティア活動を行うくらいの英語には自信があったし、あくまで熱意や計画を重視

する奨学金のため、語学力を示すための試験などをとる必要がなかった。

二つ目に奨学金の審査だ。この奨学金を応募にあたって、語学学校での学び以外の実践活動を含めたり、自身の留学計画についてうまく言語化する必要があった。この過程を経ることで、自分がどうして留学に行きたいのか、それが将来にどうつながるのか、留学先で何を達成することに期待しているのかを再確認することができた。

三つ目は、同じトビタテ生のコミュニティに入れたことだ。同期のトビタテ 16 期生は 200 名を超える大学生で構成されている。同期内での情報共有はもちろん過去に似たテーマで留学に行った人と容易につながることができる。実際に私は、同期の全体ラインに加え、イギリスを渡航先にしているひとたちのグループ、そして教育をテーマにしているひとたちのグループに所属している。このコミュニティを通じることで自身が足を運べない範囲での調査が可能だったり意見交換が可能になっている。

留学を通じて得た経験

そもそも私は今回の留学において外国における外国語教育の現場を見ることを目的としていた。その中で得られた情報は大変に意義のあるものだったといえる。世界各国での英語教育に関しては、語学学校での異国の生徒との情報の交換の中で知ることができた。また、日本語クラブに携わることでイギリスでの日本語の教育をどうしているのかなどを見ることができたことで、すべてとは言わずとも、生徒が言語学習に対する興味を尽かせたりしないようにどんな取り組みを教師が行えるかを学ぶことができた。また、同級生と交流を繰り返す中で日本にいてネットで得られる情報とはまた少し違う実際の日本に対する印象であったり、外国の人から聞くことができたのも大きな収穫だったと思う。

最後に

今回の留学について私は大学入学前から考えていたものの実際に準備する時間はかなり短かったように感じる。留学期間も 6 週間と短く、またほかのトビタテ生を見ていると半年もしくは一年間ほど行く人が多く、長くいけばいくほど得られる経験も多いのではないかと感じる。もし可能であれば長期間大学を離れるデメリットと向き合いそれを踏まえたうえでもう一度行くか行かないかを決めたいと思った。とはいえ今回の留学はこれ以上ないほど充実したものであったと自負している。



語学学校のクラスメイト



ブライトンの街の広場